

解体進む旧本庁舎

古川工業高 建築科2年生 現場実習で作業見学

旧大崎市役所本庁舎の解体工事が進んでいる。12日は古川工業高建築科の2年生3人が現場実習で訪れ、事業を請け負う古川工業（早坂章太社長）の担当者から工事の概要を聞き、大型重機が建物を取り壊す作業を見学した。

古工建友会が受け入れ

旧本庁舎の解体は7月10日に着手。内部の場なびを含め、総床面積4057平方メートルを解体する。工期は来年1月。

3階、地下1階の鉄筋コンクリート造で、並んで建てられた旧西庁舎は同じく鉄筋コンクリート造の地上4階建て、地下1階。このほ



解体作業について説明を受ける生徒たち

概要やスケジュール、安全対策や解体の進め方などについて説明を受けた。

この後、工事現場に移動し、重機がコンクリートの建物を取り壊す様子や従業員の職務などを記した安全管理の掲示板、騒音計などを見学した。

現場実習は、同科卒業生でつくる古工建友会（会長・早坂社長）が協力し、生徒を受け入れている。この日訪れたのは、山田心愛さん（17）、渡邊心花さん（17）、及川紗矢さん（17）。3人は現場事務所で担当者から工事の

機会はなく、アスペース対策などが勉強になった（山田さん）、「ピ



解体が進む旧市役所西庁舎

「周囲に気を

配って工事をするのは大変なことだと知った」（及川さん）と感想を語っていた。

早坂会長は「教科書では学べない現場での体験を、今後の進路に生かしてほしい。今後